

下田・川内山塊 白根山～堂ノ窪山～三方ガリ～灰ヶ岳～毛石山

佐貫

【日時】 2013年12月28日(土)～2014年1月1日(水)

【メンバー】L佐貫、田村、松本、棚橋

冬合宿と言えば常にこだわってきたのが「自分達だけのトレース」と「メンバー全員で作る計画」である。全くの初登なんて勿論狙っていないが、少なくとも年末年始に他のパーティーのトレースが確実についてしまうようなところは面白くない。必要な偵察は行うにしても、状況は行ってみなければ分からないというのが大切だ。そういう志向を共有するメンバーと一緒にあだこうだと意見を出し合いながら準備していく過程が楽しいのである。今年は松本さんという新しいメンバーが加わり早々に候補ルートも絞り込むことが出来たが、決定までは少々逡巡した。

年末年始の下田川内(特に川内側)に果たして十分な積雪があるのか?藪で大ハマリするのがオチじゃないのか?海の日連休と9月の連休には絶大なピンポイント人気を誇りながらも、雪山登山の対象には(少なくとも会内では)なり得ないとされている下田・川内山塊の縦走。メンバーを巻き込んでの無理心中でいいのかと散々迷ったが、きっとみんなのヘソも曲がってるはずだと勝手に踏ん切りをつけさせてもらうことにした。直前の白根山への偵察山行では積雪量に一抹の不安もあったが、ここでユラユラするよりは初志貫徹で敗退でもいいじゃないか!という声もあり(幻聴だったか??)、一同腹を括ってムーンライトえちごに乗り込み東三条へと向かったのだった。メンバー外からの氷点下の視線はこの際忘れよう。

12/28 雪 風雪次第に強まる

まだ暗いうちに親沢林道入口でタクシーを降る。先週の偵察時よりも雪は増えているものの、絶望的なほどの大雪ではないことに少し安堵。林道から同じ尾根に取付き登り出すと、初日の荷物の重さと夜行の疲れで一人早くもヨレヨレだ。白根山の西尾根に出る直前の急斜面ではさすがに雪が増えていて、腿近くまで沈むので先頭は空身でのラッセルとなる。雪の降り方はどんどん激しくなり、視界も悪くなってきて山頂が見えない中をひたすら歩く。



風雪の白根山ピーク ここから毎日
ずーっと悪天候だった



それでも何とか昼過ぎにはのっぺりした白根山山頂に立った。風が足元の雪を勢いよく巻き上げる。ここから尾根は北東へと方角を変える。何か所かあったはずの二重稜線のあたりで強風をしのげる幕場を求めたいところだ。標高差で100mほど下るが、その間にも西からの風をもろに受けて顔が痛くなってくる。無造作に下ってしまうと間違った尾根に入り込みかねないのでこまめに地形図とコンパスで確認した。下り始めて間もなく幕場適地があったが、さすがにもう少し進んだ方が良さそうだ。なおもダラっとした鞍部を歩いているとどんどん風が強まり、なかなかいい場所がないと心配になりかけた時、c810から東側に数十m下りたあたりに静かな場所があった。今日はここで行動終了だ。(佐貫記)

【テントの中で】大荒れ予報の割にはまだマシな天気、でも少しは回復してくれないかな。今回はどこまで行けるのか。(佐貫) /年々トシを取ったなーと感じます。今日もバテバテ、荷物が重い。(田村)先週末ときより雪が増えている(あたりまえか)。ラッセルきついよー。(松本) /皆様のご好意で今回参加が叶った。天気も冬山らしくてどきどき、わくわく。明日も無理はできないけど、頑張ろう。(棚橋)

12/29 雪 視界不良

5時起床のはずなのに、目を覚ましたのは6時半！夜行で疲れていたとはいえ、珍しい失敗だ。支度でも挽回できず、8時過ぎの出発となった。

まず810ポコに登り、尾根通しに先を目指す。思ったより重雪で、遅々として進まない。繰り返しアップダウンがあって非常に消耗する。おまけに部分的に細く雪庇が出ていたりして、ルートどりが難しいところが出てくる。雪庇を怖がって、反対側の急斜面を藪こぎすることになり、腕の力がなくなる者もいたくらいだ。

924前後のギャップ2ヶ所は、いずれも雪の状態が良く問題なく通過できた。2つ目は一旦支尾根に導かれてしまい、少し下を回って雪庇を確認して回り込む形となった。

一本岳への登りはやや急で白く、視界もないため精神的に疲れる。雪崩が怖いので、肩まで忠実に尾根を辿った。できれば山頂を踏みたかったが、先を急がなければならず断念。せめて堂ノ窪山を越えたいというリーダーの意向に沿って頑張る。途中、トップの足元からヒビが入り雪庇が落ちる場面もあった。

ようやく堂ノ窪山に辿り着いた時にはもう16時半、日没だ。急いで下り、沢の源頭のような窪地をテン場とした。沢からの吹き上げがあり、あまりいい場所ではないが仕方ない。遅れていた棚橋さんも、ヘッドンを付けて設営中に辿り着いた。予想通り



なんも見えねえ…



その晩は除雪に苦しめられる羽目となった。(田村記)

【テントの中で】大寝坊に残業、良い子はマネをしてはいけません。最初はクラスト気味で楽だと思ったけど、後半はラッセルに苦しんだ一日でした。(佐貫) / 最後、欲張って残業してしまったのは今一。今ちょっと具合が悪い。悲しい！(田村) / いきなり木伝いトラバースで、パンプ寸前。トレーニング不足を実感。帰ったらトレーニングします。(棚橋) / あーつらかった！でも、奥深さはピカイチ！ブナ森もきれいです。あー、何とか歩き通したいよー。(松本)

12月30日 雪 視界不良

この日は自分のスコップ探しから始まった。朝からテント周りの除雪だが、スコップが埋まってしまった。夜中、テントをたたく音は内部に大きく響き、雨が降っているのかと思うほどだった。それが一晩で40~50cmは積もったのだろうか。テントを掘り出したあとは、すっかり雪に埋まったストックやスノーシューの搜索をする。見つからないと先に進めない…必死に探す。ようやく掘り出して、ほっとする。

今日も視界はない。真っ白い箱の中にいるようで自分がどこを歩いているのか、判然としなない。幕場から東に進んでいた尾根は、ジャンクションピークで進路を南へとる。次の900mポコからまた尾根は東へと変わる。うねうねと進路を変えている。すると突然、世界が少し明るくなり、奇跡のように一瞬、視界が開けた。

山が見える！ 低いが、白い巒に私たちは囲まれていた。しかし、この地に明るくない私は、どれがなんの山なのかさっぱりわからないが、とにかく今は下田から川内へ向かう尾根を歩き、深い所へ向かっているのだということだけは実感している。振り返ると佐貫さんが上から「写真を撮るから止まって～」と叫んでいる。前をゆく棚橋さんはどんどん豆粒になってゆく。次のピークに登り返すときには、再び白い世界に戻ってしまった。それは一瞬のことだった。

尾根はその先、ナイフエッジとなり、ここをトップで行くが、どこまで雪底なのか、このルートどりでいいのか、かすかに見える視界を頼りに、神経を張り詰め、集中して慎重に進む。張り詰めすぎたせいか、後頭部がジンジンと痛い。途中、情けないことにぐったりしてしまった。佐貫さんとトップを交代。岩場を巻き、斜面をトラバースする。雪崩の心配もあったが、無事通過した。

三方ガリ(地形図に名称はない)という986mのピークに出た。また尾根は南へ。この先、アカシガラ沢源頭から先、青里岳まではよい幕場がないということで、アカシガラ沢の源頭へ。ブナ林のきれいな場所だった。まだ13時ごろだったが、早めに幕になった。しかし、明日も天気は相変わらず悪いようだ。青里までいけるのだろうか…。

(松本記)

【テントの中で】アミダクジのように尾根をくねくねと今日もラッセル。せつかくのナイフエッジなのに視界がなかったのは残念だけど、川内の一番奥深いところに近づいて行く感覚は何物にも代えがたい。今日もBGMは70's rock。(佐貫) / 膝の不調を忘れ

て少し頑張ったら不安を感じた。ここは山深いので無理をせず、無事に下山することを目指します。(棚橋) / 針デポを天場に忘れた。情けない！今日もこんなに天気が悪いとは、去年の二の舞か…。(田村) / 今日も天気悪し。ほとんど視界がきかず、どこを歩いていいのかいまいちわからない。雪庇の際、どのあたりか判断に迷う。後ろからもっと左にとか声がかかる。ああ、こういうのが雪山だなー。ライン取りとラッセルの繰り返し、たまに視界が良くなると沢と尾根が入り乱れている。深いところに来たんだなーとしみじみして、鼻水が飛んでゆく。(松本)

12月31日 曇り時々雪 夕方少し晴れ間が出る

アカシガラ沢源頭という素晴らしいロケーションの幕場であったが、今日も雪掻きで朝を迎える。吹き溜まったのではなく、一晩に30~40cmほどの降雪があったようだ。三日連続である。今後の天気とこれまでの降雪量を鑑みて、灰ヶ岳~毛石山方向へのエスケープを決める。やむを得ない選択である。

灰ヶ岳へは三方ガリ方向には登り返さず、支尾根から上がるルートを採用することにする。源頭を少し進むと2010年の春にも登り返した、見覚えのある尾根が現れ、結局そこをルートに採る。急斜面のラッセルに苦しめられ、ようやく灰ヶ岳に続く稜線に出る。

実は、灰ヶ岳は稜線から少し外れた所にある。膝に不安のある私は、灰ヶ岳の山頂は以前に踏んだこともあるのでリーダーと2人、寄り道はパスしてトレースを付けることにする。自分とすれば珍しい選択であるが、一切迷いも無かった。

先に行くリーダーは途中、深さ1mほどのシュルンドに落ちる。底は完全に地面だったし、雪庇が大きく張り出している訳でも無く、予測不可能だ。幸い怪我は無いようで、ホッとする。

今日もずっと視界に恵まれなかったが、ようやく右手に杉川と大底川の大きな切れ込みが現れ出すと、その向こうには七郎平山から銀次郎山に続く稜線が確認できた。悪天も一時休止といった感じか。

できれば毛石山を越えてしまいたいというリーダーに従いラッセルを頑張るも、本日の幕営予定地である標高861m付近に着いた頃には、もう良い時間になっていたのでここでの幕営を決める。広く平坦で、木々に覆われた良い場所であった。(棚橋記)

【テントの中で】先の天気を考えるとエスケープは妥当だろう。灰ヶ岳は長年の懸案が片付いて良かった。明日は意地でも下りる！(田村) / 今朝も雪かきで起こされる。3日連続30cm超。ヒザの調子も怪しくあまり頑張れない。申し訳ありません。(棚橋) /



今日も膝までのラッセル



際限なく続くアップダウンは川内名物。エスケープといっても一日で簡単に下りられないのは、根性を試されているような感じ。(佐貫) / 予定とはルートが変わったが、私にしてみればこの山城はどこも初めてなので、満足してます。もっと実力をつけて、またリベンジしたいです！さぬきさん又お願いします。(松本)

1/1 朝方晴れ、後曇りから曇、雨

昨晩は酸欠騒ぎがあり、食事もそこそこに就寝したため、朝から取り返すように焼肉などが食卓(?)に並ぶ。先にテントから出た松本さんが初日の出に歓声を上げた。踏めなかった銀次郎山の姿が朝日を浴びていた。今日は、雨につかまるとは避けられそうにない。問題は何時に下山できるか、果たして今晚泊まれる宿はあるのかということだ。

幕場から一旦下り、ちょっときれいな雪尾根を登り返すとそこが毛石山だ。以前縦走した時は途中から電話でタクシーを呼んでおき、林道の毛石山登山口まで来てもらった記憶があったが、ここで試してみても携帯はつながらず。出来れば早い時間のうちに宿を確保したかったが、まあ最後まで電話などつながらないのも川内らしくていいだろう。毛石山の次のc589ピークに登り返す前に、高曇りだった空には荒々しい風が吹き始め、「ついに来たか」という雰囲気になる。あれよあれよという間にミズレというか氷雨のようなものが降りだした。



毛石山手前の美しい雪稜

毛石山の登山口までどの尾根を辿ればいいのか、出発前に再確認してこなかったのが、曖昧な記憶を頼りに下って行く。田村さんのGPSで林道との合流地点近くに地形図にはない道(用水路の側道のような道)があることが確認できたので、それを目指して当たりをつけた尾根を進むうちに、そういえばこんなところだったなあと何となく思い出されてきた。植林帯の末端からは杉川にかかる懐かしい橋が見え、そこから用水路の際を一投足で導水橋。林道は予想以上の積雪に覆われており、しとしと降る雨の中、休憩するのも面倒になりひたすら歩いた。

見覚えのある暮坪のバス停に到着し、まずは下山連絡と宿探し。もう14時だし、とりあえずさくらんど温泉で着替えて食事して新潟のビジネスホテルにでも行くしかないかと半ば諦めムードが漂う。近隣の宿に電話攻勢を開始し3軒ほど断られた頃、松本さんがじゃらんネットで「窓がない部屋だが咲花温泉に夕食付で泊まれる宿がある」という特ダネを発見した。一同「メシと温泉があれば窓は要らない!!」タクシーを呼んで直行し、温泉と大ご馳走で打ち上げと相成った。(佐貫記)

【全体の感想】

顕著なピークハントでもなく、著名で華やかな雪稜があるわけでもないのだが、この山深い山域に分け入り踏破するというのは言葉で言い表せない充実感がある。しかしそれとは別に今回何より心に残ったのは松本さんの酸欠事故のことだった。私も同時にやられていたら、多分4人ともアウトだったろう。今までの山の経験の中で初めてのことだったが、改めてその恐ろしさを感じた。（田村）

半年前に膝を故障して以来、その他所用も重なってトレーニングも滞り、先週に1泊の予備山行を行なった後のエントリー最終決定であった。いきなり2泊3日を越える山行は無謀かと躊躇したりもしたが、何とか歩き通せて本当に良かった。これもメンバーのフォローがあつてのこと。本当にありがとうございました。（棚橋）

日本海側の、この地で年末年始に晴天を臨むことはほとんどできない。そういうところだろうと思っていたので、視界がないのも、べちゃべちゃ湿雪も、さほど苦にはならない。だからこそ、この時期に人は入らないのだから。そして、その無人地帯に自分たちのトレースをつけるという雪山における最大の喜びを味わった5日間だった。日々、濡れて重くなる荷物、一瞬の晴れ間に



林道嘯土原線は雪に覆われていた

見た景色、そして酸欠事件。あのとき一瞬にして気を失った。長い山行になればだんだん疲れも出て、注意が散漫になる。大事にいたらなかったがおおいに反省する点であった。今後も雪山を続けていく上で、今回のことはしかと肝に銘じておく。いろいろご迷惑をおかけしましたが、またよろしく願いいたします。（松本）

残念ながら厳冬期の矢筈に立つことは叶わなかった。ラッセルがきついのもあったが、予報が悪いとはいえ予備日を使って突っ込む決断が出来なかったのはやはりリーダーの力量と意気込みが不足していた結果か。そして何よりも毎日視界が無い中を歩き続けて精神的に消耗したという面も大きかった。まだまだ修行が足りません。それでも、一步ごとにどンドン人里から離れ春までは誰も来ないであろう山域に近づいていくという感覚はやはり長期山行でなくては味わえず、今年もこんな山行が出来たことに感謝したい。下田の神様川内の神様ありがとうございました。そして、メンバーのみんな、ありがとう。（佐貫）

【行程】

12/28 林道入口(6:34)～白根山登山口(7:18)～Co638(10:17)～白根山(12:32)～Co810
付近C1(13:22)



12/29 C1(8:15)～一本岳東(13:42)～堂ノ窪山(16:22)～山頂東Co1000付近C2(16:56)

12/30 C2(8:01)～三方ガリCo986(12:17)～アカシガラ沢源頭C2(13:01)

12/31 C3(7:09)～灰ヶ岳(10:10)～C861C4(15:31)

1/1 C4(7:41)～毛石山(8:29)～林道(12:13)～暮坪(13:55)

【地形図】 粟ヶ岳、高石、室谷、越後白山

